

## CALLERLABスタンダードアプリケーションの運用について

コロナの収束はまだ不透明ですが、感染防止に努めながら例会を再開するクラブが増えています。しかしながら、長いブランクのために多くのダンサーが動作を忘れたり、感が戻らなくてご苦労されているようです。

優しいコールを実践するための技術資料としてスタンダードアプリケーションが今こそ求められています。

CALLERLABがスタンダードアプリケーションの改訂版を2020年5月に発表したことを受けて、当委員会は日本語版を作成し、2021年8月からS協ホームページに掲載しています。

(ベーシック・スタンダードアプリケーションとメインストリーム・スタンダードアプリケーションに分冊されました。)

この機会に、各クラブでご活用いただけるよう、その運用について改めてご案内いたします。

1. S協のプログラムポリシー＝CALLERLAB準拠に沿い、スタンダードアプリケーションも、準拠(＝あるものを拠りどころとして、それに従うこと)して運用します。
2. スタンダードアプリケーションには次のような**目的**が書かれています。目的に沿って運用してください。

～以下、日本語版より抜粋～

この資料の目的は、経験を積んだコーラーたちが、彼らの貴重な能力を駆使して、それぞれの動作において、ダンサーが正しく上手に踊れる、数多くある開始位置の中から、適するものを選んだ実例を収集蓄積して資料化することです。

スタンダードアプリケーションの資料作成の当初の目的は一つ(下記a)でしたが、作成を進める中で、少なくとも次の3つの用途に使える内容になって来ました。

- a) 元々の目的は、目の前で踊る初めてコールするダンサーたちがどの程度踊れるかを予知する必要があるコーラーに、具体的な参考例を示すことでした。
- b) 第2の目的は、モダンスクエアダンスの広い世界の入り口から入って学ぶ生徒(ダンサー)たちにダンスを教える用意をする時に、どのコール例に重点を置いて講師(コーラー)がコールすべきかという模範例をガイドとして示すことです。時間が許せば、その例会に参加するダンサーの興味と能力に見合う追加のコール例を教えることを薦めます。
- c) 第3の目的は、スタンダードとエクステンデッドの間のグレーゾーンにあるコール例をダンサーが上手に踊れるようにするための判断力とコール技術を、コーラーが身に付けるのを助けるアイデア源になることです。

3. 活用方法としては、次のようなことが考えられます。

- ① ビギナークラスは、スタンダードアプリケーションで講習を行う
- ② ドーサードーパーティーはスタンダードアプリケーションで行う
- ③ 各クラブ、県、支部が主催するパーティー等で、スタンダードアプリケーションの時間を設ける

#### 4.ご留意いただくこと

①スタンダードアプリケーションに記載されているもの以外は、エクステンデッドアプリケーションになります。

②**目的**の記述にもある通り、コールにはグレーゾーンがあります。

ある地域では OK でも、ある地域では NG になることもあります。それらのコールを使用する場合は注意して、コールの際、補助用語を用いるなどしてください。

③運用にあたっては、目的に沿い、各クラブ、県、支部等での地域差に応じ、それぞれに合った方法を判断の上、運用してください。

■S 協ホームページ掲載先：スクエアダンストピックス 欄

URL : [http://squaredance.or.jp/sd\\_topic.html](http://squaredance.or.jp/sd_topic.html)

以上

<技術委員会・SD 小委員会>